

便利すぎる生活は、感謝を忘れた他者に優しくない世の中になる

公益社団法人 沖縄県小児保健協会
副会長 當 間 隆 也

保育園や学校、公園などで元気よく遊ぶこどもの声は公害だそう。待機児童解消のための保育園、こどもの遊び場確保のために公園を作ろうと計画しても、地域住民の反対が多いと聞く。いつからこんな世の中になったのだろうか。

私は、あまりにも便利すぎるようになった生活が、根本にあるのではないかと考えている。生活を楽にする技術が次々に生まれ、生活環境は急速に変化し、多様な生活パターンが可能になり、多様な考え方や価値観が生まれた。そのあまりにも多様な考え方や価値観の変化をお互いに理解することができないため、様々な問題が生じているのではないだろうか。例えば、我々がこどもの頃、朝起きて夜寝る、太陽の動きに合わせた生活が当たり前であった。現在は24時間明るく太陽に関係のない生活が可能になった。夜働いて朝寝る生活パターンの人にとって、学校のこども達の声は騒音なのかもしれない。

今の生活は、あまりにも便利すぎると感じる。ドアの前に立てば自動で開き、入れば勝手に閉まる。こんな生活がこどもの頃から当たり前の世代にとって、ドアを閉める習慣がないのは当然かもしれない。トイレの前に立てば蓋が開き、終わって立つと自動で流れ、手を前に出すと石鹸や水が自動で出て、洗い終わると勝手に止まる。なので、トイレを流さない、蛇口を閉め忘れることも理解できる。障がいを持つ方にとっては非常に助かる機能であるが、果たして多くの健康な人にとっても必要なのだろうか。

これだけインターネットが発達すると、人と接することなく一人で生活ができるようになる。核家族化どころか、家族内の関係性も希薄になった。携帯電話は一人一台なので、電話を取り次ぐ必要もない。一人一人の生活パターンが異なるので、家族揃って食事をすることも少なくなった。お互いがどういう生活をしているのか知らない家族も多いのではないだろうか。

家族でさえこのような関係なので他者への関心は薄い。選挙の投票率がその都度最低を更新するのは当然であろう。関心はもっぱら自分に向いているので、他者の気持ちを推し量ろうとする姿勢がなくなっている。自分の利益を優先した行動をとるので、その行動が他者にどのような影響を与えるのか考えることをしなくなった。こどもが場をわきまえずにしたい放題の行動をしても、親はそれを問題と思わないので注意すらしない。家庭は教育の場ではなくなった。周りから注意されると逆切れされる可能性があるので注意する人はいなくなり、地域で育てることも難しくなった。

今ある便利な生活環境は当然だろうか。こんなに便利な世の中を誰が作ったのか。我々はこの社会の一員である。我々は他者に対する感謝の心を忘れてはいけないと思う。このことを家庭でも地域でも学べないのだとしたら、道徳教育の導入やマスメディアを利用した積極的な啓発も一考であろう。貧困の問題も切実だが、感謝の気持ちを持った貧困は前向きだ。

まず、当たり前感謝しよう。そうすれば我々は他者との関係の中で生き、生かされていること、自分以外の他者の視点があることに気がつき、相手に配慮することができると思う。便利すぎる生活環境に感謝し、皆がその恩恵を受け、ヒトに優しい世の中になってほしいと願う。